

浜街道

仙台市博物館 学芸企画室 中武 敏彦

第12回

奥州街道の脇街道

浜街道は仙台から奥州街道を南下して岩沼宿（岩沼市）で東へ分岐し、海岸沿いを通る道で、おおむね現在の国道六号に相当します。

岩沼宿からは巨理宿（巨理町）、山下宿（山元町）、坂元宿（山元町）を経て、仙台藩の南の藩境である駒ヶ嶺宿（福島県新地町）を越えて相馬中村藩領に至ります。中村（福島県相馬市）からは、磐城平（福島県いわき市）、水戸（茨城県水戸市）を経由して江戸に至ることから、江戸浜街道・奥州浜街道、また近代以降は陸前浜街道と呼ばれました。

慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原の戦いを前に、大坂を出发した伊達政宗は、中山道（下野国（栃木県）から常陸国（茨城県）に着きます。そこから浜街道を通り北目城（太白区）に到着し、奥羽での上杉景勝との戦いに備えました。

江戸時代に入り参勤交代の制度が整うと、歴代の藩主たちは一年ごとに仙台と江戸を行き来しました。参勤交代の経路は奥州街道経由がほとんどでしたが、脇街道である浜街道を経由して奥州街道に合流することも稀にありました。ただし、全行程で浜街道を使用したことは、安永

九年（一七八〇）に七代藩主・伊達重村が江戸からの帰路に通った一度きりです。

戊辰戦争と浜街道

慶応四年（一八六八）の戊辰戦争で、仙台藩が奥羽列藩同盟を結成して新政府軍と戦った時には、さまざまな局面で浜街道が重要な意味を持ちました。

奥州街道を北上し、五月に白河城（福島県白河市）を攻略した新政府軍ですが、その後戦線は膠着します。そこで浜街道からも攻め込むべく、六月に軍艦を平潟港（茨城県北茨城市）へ派遣し、増援部隊を上陸させました。

仙台藩を中心とする同盟軍も防戦に努めました。八月に相馬中村藩を降伏させた新政府軍は、直ちに仙台藩領へ侵攻しました。駒ヶ嶺や坂元館での一カ月に渡る防戦の末、旗巻峠（丸森町）の戦いに敗れた仙台藩は降伏を申し入れました。

巨理館に向いて新政府軍に謝罪した一三代藩主・伊達慶邦は、その後、養子の宗敦と共に浜街道を通過して上京し、東京で謹慎生活に入りました。一方、戦争に勝った新政府軍の主力である薩摩・長州藩兵は、奥州街道を通過して東京へ「凱

旋」しました。

浜街道の鉄道

近代になり、鉄道の時代が到来しても、浜街道は奥州街道の副次的な位置に置かれたままでした。奥州街道に沿う東北本線が明治十九年（一八八六）に仙台まで開通したのに対し、浜街道を通る常磐線が岩沼に到達したのは、明治三十一年のことでした。

しかし、常磐線の開通により、仙台から東京への迂回ルートができたことで、逼迫していた東北本線の貨物輸送が改善されました。また、常磐線は東北本線と比べ、距離こそ長いものの平たんな路線であることから、上野（東京）と仙台間を結ぶ急行や特急列車の多くが、当初は常磐線経由で運転されました。

平成二三年（二〇一一）の東日本大震災では、山下坂元新地（福島県新地町）の三駅が津波で流失し、線路も寸断されました。線路を内陸に移設して復旧したのは、平成二八年のことです。



巨理要害(館)の右側の道が浜街道
巨理要害図(部分) 仙台市博物館蔵

おうちで楽しむ展覧会

奥州・仙台おもてなし集団

伊達武将隊と行く!!

「高札場を考察?!」
「政宗公の具足体験!」
の2本の動画を配信

はっけん! 仙台市博物館

仙台市のYouTube 公式チャンネル **せんだいTube** で検索!

長期休館のお知らせ

仙台市博物館は、
大規模改修工事のため
休館しています。

令和6年4月に再開予定です。

ご不便をおかけいたしますが、
ご理解・ご協力をお願いいたします。

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶ 博物館ホームページ
▶ 博物館ツイッター

仙台市博物館 検索
@sendai_shihaku

▶ お問い合わせ

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台北三の丸跡)
TEL:022-225-3074 / FAX:022-225-2558
8:30-17:15 ※土・日・祝休日を除く